

ダイバート支援システム DEEV の国際化と機能向上

下田 宏・吉川 榮和

1. 日中間同時インターネットダイバートの実験成功

バージョンアップしたインターネットダイバート支援システム DEEV の検証実験を兼ねて、京大エネルギー科学研究科ドクタコース学生（日本人、ベトナム人、韓国学生）と、中国北京の清華大学核能・新能研究院学生 3 名の間で、平成 19 年 3 月 16-19 日の間、インターネットによる国際間ダイバート実験を行いました。学生諸君には京大エネ科先端エネルギー科学研究教育センター（写真 1）と北京・清華大学前の 3CIS 社（写真 2）に集ってもらい、DEEV 自身は大連 3CIS 社サーバにおいての同時実験でしたが、日中間時差に関わらず成功裡に終了しました。ダイバートは、2010 年目標の京都プロトコルに替わる、2050 年を想定しての世界的な炭酸ガス排出抑制政策案の是非に関し、賛成、反対の立場を固定して勝敗を争うもので、6 名の学生諸君は、英語を共通言語に白熱した議論を戦わせました。



写真 1 京大での実験風景



写真2 北京での実験風景

2. ブレインストーミング支援システムへの発展

ダイベート支援システム DEEV の新機能として、グループダイベートを支援するシステムも開発中です。平成 19 年 3 月 16-19 日の京大―清華大学間インタネットダイベートに引き続き、3 月 20-21 日、大連の 3CIS 社において、大連理工大日本人留学生 4 人に、開発中のシステムで、「日中韓 3 国は漢字の書体と発音を共通にすべきである。是か否か」のグループダイベート後、統一するメリット・デメリット、統一するとしたらどのように進めるべきか、グループでブレインストーミングして貰いました。写真 3 はその実験風景です。



写真3 キャラクタのダイベート記録読み上げを聞く場面